

中国における「翻訳絵本」の教材としての発展

——師範教育における教材開発を中心に

劉娟

はじめに

中国のオリジナル絵本「図画書」というジャンルは、中国の児童文学及び児童教育において、二〇〇〇年前後までほとんど注目されてこなかった。一方、外国絵本の翻訳出版は一九九〇年代末から徐々に進み、二〇〇〇年代半ばには一つのブームになった。そのブームが契機となって、絵本に対する研究も始まったほか、読み聞かせ等の社会的な活動も広がり、中国のオリジナル絵本「図画書」の創作・出版も急速に発展した。

こうして、二〇〇〇年代後半から「翻訳絵本」（外国絵本の中国語訳本）が急成長を遂げ、広く受容されていくと同時に、「翻訳絵本」を教材としてとらえ、小学校・幼稚園を中心とする教育現場において、教材として用いた授業実践や教材開発が盛ん

に展開された。筆者が別稿²⁾で論じたように、これは中国における「翻訳絵本」の受容において、最も顕著な特徴である。

このような状況下、中国では教員育成と授業法・教育理論研究を担う各地の師範大学において、絵本を用いた授業法（以下、絵本授業法と略す）を開発する研究所が相次いで設立された（詳細は後述）。絵本授業法の開発が盛んになるに伴い、二〇一〇年以降師範大学の教員・小中学校の教員による絵本授業法についての研究書が少なくとも七五冊³⁾刊行された。筆者は、これらの研究書において、教材として選ばれた「翻訳絵本」の数は圧倒的であり、教育現場における絵本の受容は、中国のオリジナル絵本「図画書」より、「翻訳絵本」の方が進んでいることがわかった。現状では「翻訳絵本」が絵本授業法を实践する主体となっていると言える。

しかし、その一方、「翻訳絵本」はなぜ、どのように小学校・幼稚園の教育現場において教材として発展してきたのか、については論じられていない。本稿では師範教育における教材開発を中心に、その発端と経緯を明らかにしたい。

中国において、児童文学は一九一九～一九二二年にかけて展開された中国社会の近代化をめざした「五四運動・新文化運動」における「子どもの発見」に伴い誕生した。児童文学は誕生時から小学校の国語教科書に掲載される主な教材として国語科カリキュラムに取り入れられていた（中国のオリジナル絵本「図画書」もその頃誕生したとされている。一九二〇～一九三〇年代に盛んに出版された「図画書」は主に小学校低学年の国語科等の補助読み物として、新中国成立から二〇〇〇年までは主に幼稚園の教材として使われてきた）。そのため、児童文学理論の研究は師範教育における国語科の教員育成の過程において発展していった。こうした背景から児童文学は誕生時から、国家に求められている「あるべき児童」像に沿った児童の育成という「教育的価値」が重要視され、これは現在まで受け継がれている。師範教育における教材開発を通して解明する理由は、以上のような中国の児童文学が独自の伝統に基づいているためである。

中国では、児童文学理論研究は師範大学の研究者らに中心となつて進められている。児童文学理論は、主にまず現場教員、教員を志望する学生に受容されるという傾向が明らかであ

る。それが、中国の児童文学における独自の伝統を構築している。本稿では、この構図のもとで、二〇〇〇年以降の中国において児童文学と見なされている「翻訳絵本」の教材としての発展の経緯とその原因を解明したい。このような考察を通じての、中国の小学校・幼稚園の教育における「翻訳絵本」活用の経緯と特徴を理解することは、日中両国の児童教育観の理解を深める一助となる。

一、小学校における絵本授業の先駆者

——清華大学付属小学校国語教員竇桂梅を中心に

筆者が別稿⁴で論じたように、二〇一〇年代以降、小学校・幼稚園を中心とする教育現場において、絵本を教材として盛んに使われるようになった。そのうち、特に言語・国語教育活動の教材として一般的に使われるようになった。なお、小学校の場合は、低学年の国語科に集中している。

二〇一七年に中国教育部（日本の「文部科学省」に相当する）主催の「国培計劃」（小中学校・幼稚園教員の資質・能力を向上させるため教員に五年に一度の研修機会を確保する国家級育成訓練計劃）に合わせ、学科別ではじめて発行された国語科の教員の育成訓練用の手引きとなる「中小学幼児園教師培訓課程指導標準——義務教育語文・学科教学」（「中小学校及び幼稚園の教員の育成訓練課程用の指導基準【義務教育国語科教学】」）に

おいては、小学校低学年向けのテキストとして説明文、現代・当代散文、小説、漢文、現代詩、劇本、児童文学作品が取り上げられた。また、児童文学作品の内訳について見てみると、童謡、児童詩、寓話、童話、故事、散文、絵本が含まれている。さらに、最初は小学校の国語科教育の現場で副教材等の形で使われるようになった絵本であるが、二〇一九年全国小学校統一の国語教科書(試用版)三年(下)ではじめて教材として採用された⁶。このように、絵本は小学校国語科の教材としての地位が正式に認められたと言える。また、中国政府が作成した幼稚園・家庭における幼児教育の手引きのなかの言語教育の指導方針及び幼児教育に関する政策に絵本を利用する指導も導入されるようになった⁷。しかし、絵本を小学校・幼稚園の教育活動に使うようにという規定が政府の教育政策等に見られるのはずっと後のことである。実際には、国語等の教育現場での教員による自主的な絵本を用いる教育活動は教育政策に盛り込まれることよりずっと早い時期から始まっている。

小学校国語教育の現場では、絵本を素材として導入することを牽引したのは「絵本教学」の先駆けとされた竇桂梅⁸である。竇は二〇〇六年にすでに『猜猜我有多爱你』(原書 *Guess how Much I Love You Here, There and Everywhere*、日本語版名『*なんなにきみがすきだかあててらん*』⁹、『愛心樹』(原書 *The Giving Tree*、日本語版名『おおきな木』)¹⁰等の「翻訳絵本」を用いて研究授業を行ったことがあるが¹¹、最も反響を呼んだの

は二〇〇七年にイギリスの「翻訳絵本」『我爸爸』(原書 *My Dad*、日本語版名『うちのパパってかっこいい』)、中国語訳は「私のパパ」という意味¹²を用いる低学年向けの作文指導の研究授業である。同研究授業の記録は小学校国語教育関連の学術誌に複数回掲載された¹³だけではなく、同年十月に教育部直属の中国教育科学研究院主催の「中小學生作文個性化發展研究」の五回目の年会において、『我爸爸』を用いる作文指導の研究授業も行われたことで、小学校の国語教育現場に大きな影響を与えた。絵本の授業法は竇が広めていったと言っても過言ではない。

しかし、実際に絵本を教材として教育活動に使い始めたのは竇が最初ではない。竇が編集した著書『竇桂梅的閱讀課堂』¹⁴に載録された読書推進プロジェクト「親近母語(母語に親しもう)」の創始者徐冬梅¹⁵によると、二〇〇六年に揚州で開催された「第二回中国児童閱讀論壇」において、台湾の絵本作家・訳者の方素珍が絵本の授業における利用について紹介したことがある¹⁶。ほかにも絵本普及に携わる関係者によって絵本を教材として使った教育活動もあったが、影響力は限られた範囲に限定されたものとなっていた。竇は中国のトップレベルの小学校の国語の特級教員¹⁷として、教育現場では非常に影響力を持っている。二〇〇七年の『我爸爸』を用いる研究授業は大きな反響を呼び、その後各地に赴いて研究授業を行った。徐は中国各地の教員がこの研究授業により、はじめて絵本に触れるこ

とができたことで、はじめて絵本の魅力を知ることができたと評価している。
 ここでは、寶は『我爸爸』を用いてどのように授業を進めていたのかを以下のようにまとめる(表一)¹⁸⁾

表一 授業の進め方のまとめ

活動目的	
<p>一 中国伝統の父親像は厳かであり、子どもが近寄りがたく、うやうやしく接しなければいけない存在であるが、『我爸爸』にはそれとは異なる父親像が提示されている。『我爸爸』を通して、生徒に西洋文化にあるこれまで知り得なかつた感情と意味を味わわせる。</p> <p>二 授業では「絵と文」両方を重視し、学年ごとの発達に合わせて、「読む、書く、描く」を鍛える。</p> <p>三 この絵本を読んで、生徒に「作文」させるだけではなく、「創作」させ、「成長」させる。</p>	<p>一 導入 ①母のことを謳う歌から入り、父について語ることを促して授業に入る。 ②『我爸爸』を手にとり紹介する。 ③なぜ生徒が笑い出したのかについて、生徒に説明させる。</p>
教員の活動 (教員の語りかけによって進行する)	
<p>一 導入 ①母のことを謳う歌及び詩を挙げる。 ②『我爸爸』の絵を見て笑い出したのかについて、パパの特徴を述べる。</p>	<p>一 導入 ①母を謳う歌及び詩を挙げる。 ②『我爸爸』の絵を見て笑い出したのかについて、パパの特徴を述べる。</p>
生徒の活動	

二 文字抜き絵の絵を読む(PPT)
 絵の内容について話題を提供し、生徒の話を引き出す。また、生徒の話についてコメントを出したり、質問したりする。

①一セット目の絵を見せる。
 パパの特徴の一つ「勇敢」を取り上げ、生徒が自分で絵本の内容に基づいてまとめた単語のため、クリエイティブだと評価し、生徒に板書させる。

②二セット目の絵を見せる。
 文法パターン「像：一様：(…のよう)に：」を取り上げて、絵の内容に合わせて語らせる。
 パパのほかの特徴「強壮(強い)」「愉快」を取り上げて、生徒の自分のまとめとして、クリエイティブだと評価し、板書させる。

三 吟味
 ①絵本の全体像をつかむ。
 PPTを消して、一番印象に残った絵について語らせる。

②「画中画」(シユルレアリスム絵画の表現手法、画面に異質なものを一見無関係なものとして併置しながらも、画面に描かれたものの間に不思議な関係を生み出す手法)を探させ、その内容について語らせる。語彙、教養、知識の勉強につなげる。

③絵本の文章の表現形式を理解させる。
 ある頁にある絵をPPTで提示して、それに相当する文章を読ませる。文章における接続詞、文法パターンの具体的な使い方を身につけさせる。

二 文字抜き絵の絵を読む(PPT)
 教員の誘導に従って話す。

①一セット目の絵を見て自由に語る。
 例・教員「パパは何も怖くない。狼も怖くないか? パパは大胆でしょうか?」
 生徒「大胆だね、狼も怖からない」

(略)

教員「よく観察できているね。もう少し見て、パパはほかどんな大胆なことができるの?」
 生徒「パパは巨人とレスリングもできる」

(略)

生徒「この絵本のパパはとても勇敢なパパ」
 教員「あなたも勇敢だ。：勇敢という言葉を自分で絵本の内容に基づいてまとめてくれてありがとう。：」

四 創作

① ヒントを与える

教員が「パパはこんなにたくさんの特徴を持っていて、とても個性がある。本当にかっこいいパパだね。みなさんも自分のパパのために絵を描いたり、文を作ったりしたくなった？」とまとめた絵本で使われた文法パターン「像…：一様…（…のように…）」を用いて創作しようと呼びかける。

② 展示とコメント

生徒の作品を展示し、質問したり、コメントしたりする。

三 吟味

① 絵本の全体像をつかむ。

一番印象に残った絵について自由に語り、その内容について自由に語る。

四 創作

① 自分のパパについて絵文を創作する。

② 教員の質問に答えたり、感想を述べたりする。

表一のように、竇の『我爸爸』を用いる国語授業のプロセスとしては、まず絵を読むことを指導し、語彙、文法パターンをまねて語らせながら、生徒が自分で絵本の内容に基づいてまとめた単語「楽しい」「強い」「優しい」「勇敢」「ユーモア」「賢い」等を、クリエイティブだと評価し、生徒に板書させる。そして、一つのテーマをめぐって生徒に複数の文を語らせ、口頭の表現力を鍛える。最後に、その延長線で「私のパパ」について文を書かせて、絵を描かせて、クリエイティブティ（創作性）を発揮させる。

では、竇がなぜ『我爸爸』を作文授業の教材にしたのかについて、竇は著作の中で以下の二つの理由を挙げている¹⁹。

一つは絵本の折込み付録の解説²⁰にある「黄色い縞模様の」パジャマはお父さんの唯一の形見だ」ということから感銘を受けたことである。竇は中国の文芸作品における「父親像」は家族を養うために一生苦勞し、高齢になって体が弱ってくるというものであり、その姿はむしろ慈愛にあふれて優しい「母親像」にも似ているため、読んでみると気持ちが悪くなる人が多いと考えている。『我爸爸』という絵本は、父が亡くなって、パジャマが唯一の形見であることから、父を表す一つの表象としてパジャマ（の柄）を使用し、生まれた話である。竇が示したように、同じような素材がもし中国の文芸作品で取り扱われる場合は、厳かに偲ぶはずであろう。しかし、『我爸爸』では、偲ぶどころか、「父」の呼び方が「パパ」に変わり、パパはかわいらしく、ユーモアいっぱい描き出されている。「愛すれば愛するほど、（悲しむはずのことも）軽快に愉快に表現する」ということは「東洋人と西洋人の愛の表し方の違い」であろうが、それもまたパパに対する「子どもの真摯な愛」であり、「人の心を揺さぶる感情の発露である」と竇は評価している。なお、「作文には真の感情こそが必要」であることと、「母語学習の角度から、子どもの感性を育て、感情を発散できる道を開かなければいけない。この絵本における感情の手がかりは父親への感情である」ことから、この絵本を作文授業の教材にし、「生徒の表現の意欲に火をつければ」、本当の感情が創作に集まってくるはずであると竇が考えている。もう一つは『我爸爸』のよう

な素晴らしい絵に触れさせ、自然に対する愛情及び関心が蘇ることへの期待である。

さらに、ここでは直接的に触れられていないが、中国の国語教育では、元々「看图作文」という「絵」を見て作文する低学年向けの指導法がよく使われており、絵本を教材とすることは、伝統的な「看图作文」の授業づくりからの当然な流れであるとも考えられる。

最後に、竇がなぜ『我爸爸』を教材にしたのかについて、竇自身は直接言及していないが、二〇〇〇年代初め頃から竇が自ら提唱している小学校国語教育における「人と母語文化との関係」²¹とも関りがあることが考えられる。「人と母語文化との関係」について、竇は「教師は多角度、多ルート、多方面から構成された教材を使用して生徒に文化知識、感情体験、生活経験を積ませなければならぬ。しかし、現状ある教材では、そのような要求をまったく満たすことができない。(現在の)教材のその先を行かねばならない。しかし、教科が多くてプレッシャーも大きいなか、どうすれば生徒に母語文化への興味を持たせることができるのだろうか。これは私たちが考えなければならぬ問題である」と述べている。この言葉には、生徒が母語文化に興味を持たなくなっているという危機感が潜んでいる。竇がこの教育理念を提唱しはじめた理由は、当時中国の国語教育において、ほとんどの国語教科書の単元体系が「知識単元」²²から構成されていたことにある。国語教育は人文性に欠

けており、授業では受身的な学習や丸暗記、機械的訓練が重視されている。中国では一九九〇年代以降学習者の全面的な資質の向上を図る「素質教育」に教育の重点が置かれ、且つそれを国家の教育政策として積極的に進めた。こうして、学校教育における各教科のカリキュラムも「素質教育」という教育方針に沿って調整されるようになったのである。一九九〇年代末から二〇一〇年代初め頃までの十数年間、中国では教育改革が深化し、各教科の指導要領の改訂が行われていた。小学校の国語教科書の単元体系も「知識単元」から人文性を重んじる「主題単元」に変わったのである。竇が『我爸爸』を教材にしたのは、まさに自分が提起した「どうすれば生徒に母語文化への興味を持たせることができるのか」という問題を解決するための様々な実践の結果だったと言える。

二、北京師範大学における

初の系統的な絵本授業法研究書の出版

上述のように、国家教育政策として推し進められてきている「素質教育」を具体化できる絵本を教材とする先駆けとなった竇の授業は全国の小学校の国語教育現場に大きな影響を与えた。教材としての絵本に対する関心の高まりは、小学校・幼稚園教育に連動する師範教育における教員育成にも影響を与えるようになった。

冒頭で述べたように、中国では教員育成と授業法・教育理論研究を担う各地の師範大学において、絵本の授業法を開発する研究所が相次いで設立された(二〇一一年に南京師範大学教育科学学院児童図書研究中心、二〇一二年に首都師範大学初等教育学院児童文学教育研究中心、二〇一五年に北京師範大学文学学院中国図書創作研究中心等)。なかでも特に児童文学の理論・指導法研究を最も早くから展開している歴史のある北京師範大学においては、二〇一〇年代初め頃という早い段階から絵本を児童教育に取り組もうとしてきた。北京師範大学文学学院中国図書創作研究中心の主任である陳暉によって二〇一〇年に出版された『図畫的講読芸術』²³は中国の各師範大学における絵本授業法について初めて系統的に研究した著作と言える。『図畫的講読芸術』に続いて、二〇一二年に陳暉が主編した絵本を教材とする授業実践例『二十世紀絵本課堂(二十世紀絵本授業)』シリーズ(六冊)²⁴が出版された。『二十世紀絵本課堂』シリーズは学年ごとに一冊ずつ作られ、シリーズの開発には、主な共同編集者として北京市内の有名な小学校の国語教師一七人が携わった。

その後、類似した小学校・幼稚園現場の教員向けの絵本授業法の本が首都師範大学等の研究者によって出版され²⁵、絵本授業法の開発が盛んになった。各師範大学及び師範専門学校において、絵本を用いた教育活動指導も広く展開されるようになった。なかには重点教科として立てられたところ²⁶もある。そ

れまでも、前述の寶等の小学校・幼稚園現場の教師及び研究者による国語教育・啓蒙教育等の授業法に関する著書では、絵本授業法が取り上げられたこと²⁷もある。しかし、『図畫的講読芸術』をはじめとする絵本授業法専門の研究書の出版には格別な意味がある。それは今後小学校・幼稚園の教師を志望する大学生に影響を与えることになるということである。

三、師範教育における絵本教材開発の発展

冒頭で述べたように、師範教育における絵本授業法の系統的な研究書は、陳暉の著書を嚆矢として、その後、師範大学の教員・小中学校の教員による絵本授業法についての研究書が少なくとも七五冊刊行された。絵本授業法に関する研究は小学校・幼稚園の言語・国語の科目にとどまらず、数学、道徳、生命教育、美術、科学、心理健康教育等の科目及び幼小連携の教育活動にも見られるようになった。

中でも代表的なのは首都師範大学初等教育学院児童文学教育研究中心²⁸の主任王蕾によって、二〇一五年と二〇一七年に出版された二冊で、それぞれ師範大学(専門学校)の就学前教育専攻用、及び小学校教育専攻用の絵本授業法の研究書である²⁹。著者の王蕾は、「それまで絵本に関する授業法は児童文学の関連授業に組み込まれていたが、この二冊の絵本授業法の研究書の出版によって、絵本授業法は(児童文学の授業法から独立

して)正式に大学の関連専攻の教材に組み込まれるようになった³⁰と主張した。
 以下は王蕾と陳暉の著書を照らし合わせ、それぞれの特徴を出版主旨及び内容構成から明らかにし(表二・表三、下線は筆者による)、師範教育における絵本授業法研究の概要・発展・変遷を考察する。

表二 北京師範大学と首都師範大学の絵本授業法研究書の出版主旨(抜粋)

出版年・書名	出版主旨
二〇一〇年 『图画書の 講読芸術』	中国の児童読み物においては、就学前児童向けの「图画書」が昔からあるが、この本で研究対象とする絵を主として創作された文学性と独特な芸術性のある絵本は伝統的な「图画書」と異なるものである。「絵本」の芸術の新しさ、独特さ、幅広さ、内容の豊かさ、奥深さによって、絵本の絵と文字に対する鑑賞、理解、感受、評価には専門的な理論指導及び芸術経験の支援が必要となる。 絵本が学校の教育資源となりつつあり、一般的に教員及び教育意識の強い保護者には、「 <u>閱讀</u> —— <u>理解</u> —— <u>議論</u> 」という学習型の絵本勉強法が受け入れられている。しかし、こういった「 <u>同質化</u> 」「 <u>単一化</u> 」の絵本授業法は絵本のクリエイティビティを体感することができないうえ、絵本閲読の最も重要で根本的な目的

二〇一二年 『二十一世紀 絵本課堂』 (六冊) 副題名 「中国児童文 学校園閲読 支持工程」	読書の楽しさを味わい、絵本の芸術を鑑賞することに背くことになる。よく理解しないといけないことは、児童は絵本から心理的及び感情的な期待を求めているため、大人の理解及び考えを絵本の教授を通して簡単に押し付けてはいけないことである。 基礎教育改革が行われ、児童の素質教育政策が国家によって推し進められているなか、 <u>児童文学(絵本)</u> 【原文では「 <u>児童文学(絵本)</u> 」と明記されている】の優れた教育資源としての性質、地位及び役割がさらに認識されるようになった。児童文学(絵本)は特に児童の心身発達に必要なこと及び趣味に対して、 <u>文学、芸術、科学、審美等</u> 多方面にわたる豊かな要素を内包しており、 <u>児童の精神成長の促進、感情及び価値観の養成、多元的知能の強化等</u> にも非常に重要な意義及び役割を有している。児童文学(絵本)を用いて閲読運動を展開し、各学校の関連課程を自主的に立ち上げることは各レベルの学校及び教育機構における全体的な選択と傾向となっている。 この本の出版によって、中国児童文学は出版資源が教育資源へと転換する時期において、新たなモデルが作られたと言える。中国の児童文学は児童に受け入れられ、学校読書及び教育利用における推進を促すに違いない。
---	--

<p>二〇一五年 『幼児図画 書主題賞読 与教学』 シリーズ名 『全国学前教 育専攻新課程 標準』十二五 (第十二次五 カ年) 規畫 教材』</p>	<p>二〇一七年 『小学図画書 主題賞読与 教学』</p>
<p>絵を主として、文を補助とする絵本は就学前児童にとつて、最もふさわしい読み物である。絵本は幼児の言語、想像、思惟及び記憶発展には重要な価値がある。ここ数年「絵本教学」は就学前児童教育における重要な資源及び教育手段となっている。就学前教育の発展における絵本の運用研究、すなわち絵本を就学前教育と結び付ける研究は現在児童文学学科、就学前教育学科の重要な発展方向となっている。こうした背景に基づき、就学前教育学科の学部生、短大生に絵本を幼稚園の教育実践と結び付ける授業を開設することは幼稚園の教員をよりよく育成することができる。本教材は幼稚園の教育改革の趣旨に基づき、中国国内(師範教育における)初の絵本運用型の教学研究の大学の教材となる。</p>	<p>中国国内(師範教育における)初の初等教育専攻における絵本授業法研究の大学の教材である。本教材は、基礎教育発展における絵本教学分野の大学の教材の空白を埋めた。教育改革の要求も満たしている。本教材は初等教育専攻の短大生、学部生、大学院生及び小学校の現任教員、児童図書館員、絵本館スタッフ及び絵本愛好家等に適している。</p>

表三 北京師範大学と首都師範大学の絵本授業法研究書の内容構成(抜粋)

<p>二〇一二年 『二十一世紀 絵本課堂』 (六冊) 副題名 『中国児童文 学校園閲読 支持工程』</p>	<p>出版年・書名 二〇一〇年 『図画的講 読芸術』</p>
<p>小学校一～六年まで学年ごとに一冊ずつ作られ計六冊となっている。一冊に二〇前後の絵本を使った実際の授業例が掲載されている。授業例ごとに出版情報、内容提要、作品鑑賞分析、作者プロフィール、授業アドバイス、閲読活動、学生の反応と活動(提出した課題)、教員手記、広げる読書等のコラムからなる。 翻訳絵本 一年生…一五冊のうち翻訳絵本は一四冊(日本一冊「くもくん」) 二年生…一六冊のうち翻訳絵本は一五冊(日本二冊「ありとすいか」『てぶくろをかにに』) 三年生…一五冊全て翻訳絵本(日本三冊「はるにあえたよ」『おおきなテール』『おまえうまそうだな』)</p>	<p>内容構成 上編と下編からなる。 上編は絵本の芸術構成と教授理念・芸術について、下編は二七冊の絵本の授業法のアドバイス及び行われた授業実験に対するまとめ、関連絵本の紹介からなる。 二七冊のうち翻訳絵本は二五冊…うち日本の翻訳絵本は「一〇〇万回生きた猫」『小さなビスケのはじめての友だち』『せかいいちうつくしいはく村』の三冊である。</p>

<p>二〇一五年 『幼児図画書 主題賞読与 教学』 シリーズ名 「全国学前 教育専攻新 課程標準」 十二五（第 十二次五カ 年）規畫教 材」</p>	
<p>絵本の内容に合わせて、一〇の大きな主題に分け、さらに一つの主題につき四〜五の小さな主題に細かく分類され、それぞれの主題に基づいた絵本が選ばれている。絵本は、一つの小さな主題につき二、三冊が用意される。一つの大きな主題の下では合計一〇冊となる構成である。内容紹介、教育的解説、活動プラン（目標準備、過程）、関連絵本の紹介、の四部分からなる。全部で一〇〇冊となる。うち翻訳絵本は八四冊。</p> <p>主題は以下の通り（一つ目の主題の小さな主題だけ示す）。</p> <p>一、品格の育成</p> <p>①誠実で約束を守る②優しく寛容的③勤勉で節約する④逞しく粘り強い⑤丁寧で礼儀正しい</p> <p>二、自然と生態（の学習）</p> <p>三、生活能力（の育成）</p>	<p>四年生・二五冊のうち翻訳絵本は一四冊（日本四冊）『なぞなぞアルファベット』『ぼくはカメレオン』『まほうのマフラー』『わにのバンボ』</p> <p>五年生・二四冊のうち翻訳絵本は一二冊（日本四冊）『きつねの窓』『小さな青い馬』『おかあさん、げんきですか。』『せかいいちうつくしいほくの村』</p> <p>六年生・一三冊全部翻訳絵本（日本三冊）『ねこたププビビ海のなか』『えほん北緯36度線』『ルリユールおじさん』</p>

	<p>四、生命教育（の学習）</p> <p>五、健康発展</p> <p>六、安全教育（の学習）</p> <p>七、社会交際（の学習）</p> <p>八、芸術発展</p> <p>九、科学啓蒙</p> <p>十、言語発展</p> <p>日本の翻訳絵本</p> <p>一、③勤勉で節約する…（節約する良い習慣を身につける）『もったいないばあさん』</p> <p>二、①自然と生態を認識する…（同じ緯度の異なる景色）『えほん北緯36度線』（春を探す）『はるにあえたよ』（自然の美と家族愛の美）『14ひきのさむいふゆ』</p> <p>三、①自主自理（自分のことは自分でする）…（自分で服を着る）『はけたよはけたよ』（トイレに行く習慣を身につけさせる）『うちちだうんちだしゅつぽぼ』</p> <p>五、③情緒管理（感情のコントロール）…（恐怖心を克服する）『モチモチの木』</p> <p>六、①交通安全（を知る）…（交通ルールを守る）『びかくんめをまわす』</p> <p>七、協力することを身につける…（協力することで夢がかなう）『りんごがたべたいねずみくん』（分かち合おう）『ぐりとぐら』</p>
--	---

<p>二〇一七年 『小学図画 書主題賞読 与教学』</p>	<p>八、①色彩を感じる…(色が変わるのも困る)『ぼくはカメレオン』②音楽を感じる…(自分に合う楽器を探そう)『ねずみくんとおんがくかい』③舞踊を鑑賞する…(おどるおちば)『おちばがおどる』 九、④数学に触れあう…(数字一から一〇までを認識する)『はじめはりんごのみがいつこ』 十、②コミュニケーションと聞く能力を身につける…(文字には大きな役割がある)『おとなりさん』</p> <p>絵本の内容に合わせ一〇の大きな主題を定め、一つの主題をさらに一〇の小さな主題に細かく分類され、それぞれの主題に基づいた絵本が選ばれている。絵本は、一つの小さな主題につき一冊が用意され、一つの大きな主題の下では合計一〇冊となる構成である。鑑賞分析、閲読と教授の具体的な案からなる。</p> <p>全部で一〇〇冊となる。うち翻訳絵本は七五冊。 主題は以下の通り(最初の二つ目の主題の小さな主題だけ示す)。</p> <p>一、品格の育成</p> <p>①勇敢な態度で任務を完了する②自信を持つ③感謝の心を持つ④他人に寛容な態度で接する⑤誠実に身を持つ⑥とことんまでやり通す⑦喜んで人を助ける⑧困難を克服する⑨勤勉な生活態度と節約の精神を持つ⑩持っているものを大事にする</p> <p>二、自我成長</p>
---	--

	<p>三、生命教育(の学習) 四、社会交際(の学習) 五、親情開発 六、自然生愛(の学習) 七、芸術発展 八、科学啓蒙 九、多元文化(の学習) 十、人文社会科学(の学習)</p> <p>日本の翻訳絵本</p> <p>一、①勇敢な態度で任務達成する『はじめてのおつかい』⑨勤勉な生活態度と節約の精神を持つ『ちいさなくれよん』</p> <p>三、⑥生命の成長の足跡を探す『いちご』(新宮聖彦)³¹ ⑩生命循環の不思議さを味わう『もこもこもこ』</p> <p>七、②楽器たちの様子『ひみつのがっき』</p> <p>八、⑥不思議な宇宙ステーション『もしも宇宙でくらしたら』⑨きれいな野菜の花『やさしいばたけはなばたけ』</p> <p>九、⑧中国伝統文化の中の桃源郷——『桃源郷ものごと』</p> <p>十、②戦争の罪と悪を問い質す『ぼくのこえがきこえますか(日・中・韓平和絵本)』</p>
--	---

以上、二つの師範大学の主要な取組みとしての二〇一〇年、二〇一七年の間に出版された関連著書の出版主旨と内容構成をまとめた。表二、表三からは、師範教育における絵本授業法研究の概要・発展・変遷については主に、以下の四点を明らかにした。

一 絵本が「優れた教育資源」から、次第に「重要な資源及び教育手段」となり定着していったこと。

二 教材として選ばれた「翻訳絵本」の数は圧倒的であり、二〇一〇、二〇一二年に出版された本では九割以上、二〇一五、二〇一七年も八割以上を占めている。中国のオリジナル絵本もすさまじい発展を遂げてきているが、教材としては「翻訳絵本」が依然として大きな割合を占めており、重要視されていること。

三 絵本授業法の研究書は小学校・幼稚園の現任教員向けの授業参考書としてだけでなく、次第に師範教育を行う大学・短大・専門学校等における小学校教育・就学前教育専攻の学生向けの教材としても進化してきたこと。

四 こういった絵本を教材とする授業法研究書の出版の背景には、絵本（特に「翻訳絵本」）の急激な発展のほか、「素質教育」へと転換する教育改革の存在があること。

なお、以上の考察から、以下の四点が指摘できる。

一 教育現場における絵本の受容は、中国のオリジナル絵本より、「翻訳絵本」のほうが重要な位置づけにある。「翻訳絵本」は「児童教育」の教材として、オリジナル絵本以上の「教育的価値」を生み出していた。

二 児童文学の新たなジャンルとなっている絵本に対する研究は、師範教育において、授業法の研究を中心に行われている。これは、中国において、児童文学の理論書は誕生した時から現在に至るまで児童教育、国語教育の人材を養成する教育機関で教材として使われてきたという伝統の継承である。

三 こうした絵本授業法の教材は師範教育に取り入れられ、今後小学校・幼稚園教員を志望する大学生に受容されることで、教育現場において「翻訳絵本」を教材とする授業法が更なる発展を遂げると考えられる。

四 教育現場に求められている「翻訳絵本」の「教育的価値」は、「素質教育」への転換に伴い生み出された。すなわち、「素質教育」に求められている「あるべき児童」像の具体像が「翻訳絵本」の教材化を通して表出されているのである。

このように、教育現場で期待されている効果こそ、絵本授業法の研究の発展の方向性を決めるものなのであろう。これは中国における「翻訳絵本」受容の大きな特徴である。

まとめ

以上、本稿ではまず、中国の小学校において「翻訳絵本」を教材としたという点で先駆者とされる清華大学付属小学校の国語教師竇桂梅を中心に、竇がどのように、何のために「翻訳絵本」を国語教育の教材にしたのか、について考察した。そして、師範教育における絵本教材開発を中心に、「翻訳絵本」の教材としての発展の経緯を考察した。その結果は、竇の絵本の授業実践にしても、師範教育における絵本授業法開発にしても、「翻訳絵本」を主とする絵本を教材にしたのは、中国では一九九〇年代以降全面的に進められてきた教育改革である「素質教育」に沿っていることを明らかにした。このように、中国において、二〇〇〇年以降「翻訳絵本」が急成長を遂げ、広く受容されていくと同時に、小学校・幼稚園の教育現場において、教材として盛んに使われるようになった背景には、国家教育政策として推し進められてきている「素質教育」が大きく影響している。特に、「素質教育」を具体化するための、小学校の各教科カリキュラムの改革の推進は児童教育における「翻訳絵本」の受容と連動している。

ここで「翻訳絵本」を主とする絵本と教育の関係の発展・変遷については以下の三つの特徴が見られる。一）元々中国のオリジナル絵本「図画書」は誕生時から小学校の補助読み物と幼稚園の教材として使われていたため、そのような歴史的な流れ

において「翻訳絵本」も児童教育に取り入れられるようになっていたことが当然のように考えられる。二）「翻訳絵本」が素材として使われる分野は最初は国語だったが、次第に小学校・幼稚園の様々な科目の授業に導入されるようになった。三）「翻訳絵本」を教材とする教育活動の普及は北京のような教育が進んでいると言われる地域からはじまり、この現象は教員の育成・研修を担う師範大学でいったん受け止めてから、理論付けられ、また全国に広まっていったという構図がうかがわれる。四）絵本授業法の研究書は、小学校・幼稚園の現任教員向けの授業参考書としてだけではなく、師範教育を行う大学・短大・専門学校等における小学校教育・就学前教育専攻の学生向けの教材としても進化してきた。こうした絵本授業法の研究書が師範教育用教材として取り入れられ、小学校・幼稚園教員を志望する大学生に受容されることで、教育現場において「翻訳絵本」を教材とする授業法は更なる発展を遂げてきたと考えられる。

以上、中国において児童文学と見なされている「翻訳絵本」に「教育的価値」が求められていることは明白である。日本でも絵本を教材として国語科等に使われているが、日中における絵本の教材として扱われ方の相違については今後の課題とした。

註

1 本稿では、「図画書」、「絵本」、「翻訳絵本」という用語が使われている。「図画書」は中国語であるが、「絵本」は外来語で、日本から台湾経由で中国大陸に輸入された。それまで中国の児童文学において「絵本」に相当するものとしては、中国のオリジナル絵本「図画書」が存在していた。なお、「絵本」という言葉は中国社会に受容されてはいるものの、現在もお正式な中国語にはなっておらず（一九七八年の出版以来修訂を重ね、中国において権威ある標準中国語の規範的な辞典の一つである『現代漢語詞典』最新版第七版（商務印書館、二〇一六年）にもまだ「絵本」という語彙は収録されていない）、学術の面では、ほとんどの場合「図画書」という言葉が使われている。しかし、近年の政府法令にも「絵本」という言葉が使われるようになった。本稿では、書名の引用と中国オリジナル絵本を指す時は「図画書」を使い、それ以外は「絵本」を使うこととする。

2 劉娟「中国における翻訳絵本受容の新たな傾向について——小学校教育における「想像力の養成」と「まあちゃんのながいかみ」の国語教材化の関連から——」『常盤台人間文化論叢』七卷一号（二〇二一年三月）、二九～五六頁。『中国の幼稚園言語教育における絵本の受容——幼児教育関連政策の変容に注目して』『日中翻訳文化教育研究』六号（二〇二二年三月）、一〇一～一六頁。

3 筆者が中国国家図書館（日本の国立国会図書館に相当する）、中国知網（CNKI: China National Knowledge Infrastructure）⁴ 全国における最も権威のある総合的な学術情報データベース）、全国図書館参考諮詢聯盟（中国の三六〇館の公共・教育・研

究図書館会員からなる文献資源庫）の三つのサイトで、「絵本、教学」及び「図画書、教学」というキーワードで検索し、選別した結果、少なくとも七五冊が確認できた。「教学」は中国語原文。日本語の意味は「知識や技能を」教える、教授すること。二〇二一年十一月十三日現在の検索結果である。

4 劉娟「中国の小学校低学年の語文学科教育における絵本教材受容の特徴及びその原因——「看图說話」「看图作文」授業法の変遷に注目して」『日中翻訳文化教育研究』七号。二〇二二年三月刊行予定。

5 「語文」は中国語原文。「国語」の意味である。以下引用以外「国語」を用いる。

6 中国の国語教科書に掲載された初めての絵本作品が日本の高橋方子著の『まあちゃんのながいかみ』である。中国では季穎訳によって二〇一〇年に南海出版社から『小真的長頭髮』として出版された。二〇一八年十二月発行の試用版教科書『国語』三年（下）（人民教育出版社）の第十六課に載録された「小真的長頭髮」は同作品を基本としている。

7 詳細は以下の論文参照。劉娟「中国の幼稚園言語教育における絵本の受容——幼児教育関連政策の変容に注目して」。

8 竇は清華大学付属小学校の校長で、清華大学教育研究院基礎教育研究所所長、教育部基礎教育課程教材専門家工作委员会委员、教育部「中小學教員國家級培訓（養成研修）計劃」の特任専門家も兼任、国語教育理論に関する著書が三〇数冊出版されている。http://www.ioe.tsinghua.edu.cn/info/1132/1930.htm。二〇二一年十一月二日アクセス。また、清華大学付属小学校は中国の教育シンクタンク「校長会」によって毎年公布される「中国最具影響力中小學百強榜」（中国で最も影響

力のある百強小中学校」のランキングで常にトップに君臨している。

9 山姆・麦克布雷尼著、梅子涵訳『猜猜我有多爱你』（明天出版社、二〇〇六）。

10 謝爾・希爾弗斯坦著、傅惟慈訳『愛心樹』（南海出版公司、二〇〇三）。

11 呉海飛「小絵本 大天地——竇桂梅老師繪本教學片斷賞析」『小学教學（語文版）』（二〇〇七年第八期（二〇〇七年八月）、二四～二五頁）。

12 安東尼・布朗著、余治瑩訳『我爸爸』（河北教育出版社、二〇〇七）。あらずじは以下の通りである。パパは、ゴリラぐらいも強くって、カバくんみたく楽しいんだ。パパは、おどりも強くって、歌うこえはピカイチで、くまちゃんみたくかわいいうよ。だけど、それだけじゃない、パパのすごいところ……。ぼうやとパパの、愛いっぱいのユーモラスなお話。日本語版出版社評論社による紹介：<http://www.hyonosha.co.jp/whatsnew/detail.php?detailID=161> 二〇一一年五月十九日アクセス。

13 竇桂梅「从图画書中學創作——『我爸爸』教學設計」『語文教學通訊』（二〇〇七年第五期（二〇〇七年五月）、二四～二五頁）・呉海飛「小絵本 大天地——竇桂梅老師繪本教學片斷賞析」、二四～二五頁。「名家觀點」竇桂梅・絵本作文公開課『我爸爸』課堂記錄」https://www.sohu.com/a/110979941_108064（二〇一六年八月十七日現在）、二〇一一年五月十日アクセス。

14 竇桂梅編著『竇桂梅的閱讀課堂』（廣西師範大學出版社、二〇一五）、二二三頁。本書の初版は二〇〇九年に長春出版社から出版され、二〇一五年に廣西師範大學出版社により再版

された。本稿では二〇一五年版を参照した。

15 竇桂梅編著『竇桂梅的閱讀課堂』、二二三頁。同書に収録された「親近母語」の創始者徐冬梅の文章による。「親近母語」は二〇〇一年に徐によって始められた三～十五歳児童向けの読書推進プロジェクトで、メンバーは江蘇省の小学校の国語教員を中心としている。二〇〇三年に中国の「第十次五カ年教育科学計劃」に選ばれ、会社化して全国で活動を展開するようになった。前述の「中国兒童閱讀論壇」も「親近母語」による主催で、二〇一二年四月に第十六回が開催されている。

16 中国大陆における子ども向けの絵本の普及、教育における絵本の利用は、台湾の絵本作家、出版社との交流にも影響を受けている。台湾では二〇〇〇年前後すでに絵本が素材として教育活動に使われている。代表的な授業実践の著作には林敏宜『図畫的欣賞與應用』（心理出版社、二〇〇〇）、「FUN的教学——圖畫書與語文教學」（心理出版社、二〇〇三）、方淑貞『FUN的教学——圖畫書與語文教學（第二版）』（心理出版社、二〇一〇）等がある。

17 中国では、小・中学校の教員は、教員の能力、勤務年数、學歷等に基づき、「高級」「一級」「二級」「三級」の四段階に分けられている。このほか、特に優れた業績をあげた教員は「特級」の称号が与えられる。

18 本稿では竇が編集した著書『竇桂梅的閱讀課堂』で公開された低学年向けの授業記録に基づいてまとめた。竇桂梅編著『竇桂梅的閱讀課堂』、二〇七～二二二頁。

19 竇桂梅編著『竇桂梅的閱讀課堂』、二二二～二二六頁。
20 日本でも戦後「岩波の子どもの本シリーズ」と「こどものとも」月刊絵本がこのような啓蒙的な折込み付録を使って絵本

- の家庭への普及を図っていた時期があった。中国の場合、二〇〇〇年代中ごろ翻訳出版されはじめた当時絵本の読み聞かせをほとんど経験したことがない保護者世代に絵本を普及しようとするもので、それは中国の絵本市場では販売促進のための画期的な試みとされていた。折込み付録の解説案内は主に児童文学研究者、児童教育専門家等によって書かれるもので、教育的な意識が強調されるという特徴が見られる。「我爸爸」が翻訳出版された二〇〇七年はまだ出版社が翻訳絵本の普及に力を入れていた時期であり、絵本市場は大きく発展しようとしている時期だった。折込み付録は絵本の普及及び保護者側の受け入れ意欲の向上に大きな役割を果たしている。同絵本の折込み付録には、国際アンデルセン賞や作者本人及び同作者のほかの作品の紹介以外に、『我爸爸』の内容についての解説が二本も掲載されている。一つは「アイドルパパ」という題の解説である。これは本作のパパ像と、同作者のそのほかの作品のなかのパパ像との違いについて紹介したものである。もう一つは「私のパパ、私の太陽」という題の解説である。これは絵本の文と絵についての具体的な解説である。
- 21 寶桂梅『寶桂梅与主題教学』（北京師範大学出版社、二〇〇六）、二六～二八頁。
- 22 「知識單元」とは、「説明の順序と方法」「議論の方式と方法」「小説における言語描写及び心理描写」等の認知心理学に基づく単元体系である。
- 23 陳暉『图画書の講読芸術』（二十一世紀出版社、二〇一〇）。
- 24 陳暉主編『二十一世紀絵本課堂』（六冊）（二十一世紀出版社、二〇一〇）。
- 25 王蕾主編『幼兒图画書主題賞読与教学』（復旦大学出版社、二〇一五）、王蕾主編『小学图画書主題賞読与教学』（復旦大学出版社、二〇一七）、白愛宝主編『图画書創意教學實踐』（教育科学出版社、二〇一五）、劉繼華主編『小学繪本教學指導』（西南交通大学出版社、二〇一五）、王艷艷主編『幼兒園繪本閱讀的環境創設与活動探究』（暨南大学出版社、二〇一八）等がある。
- 26 広西幼兒師範高等専科学校（幼稚園教師を育成する専門学校、中国の各省・市レベルに設けられている）では、「幼兒繪本賞析与教學活動（幼兒の繪本鑑賞と教授活動）」を当校の特徴のある教科として宣伝している。 <http://pjce.ex12333.net/Information/Details?id=119514860986830848>（二〇一九年一月二十三日現在）、二〇二二年一月一日アクセス。
- 27 寶桂梅『寶桂梅的閱讀課堂』（長春出版社、二〇〇九）、盛春『學生喜欲我這樣教語文』（上海社会科学院出版社、二〇一〇）、李映鳳『寓教于玩玩中成长幼兒啟蒙課例選粹』（寧波出版社、二〇一〇）、浙江省「幼兒園課程指導」編写委員會編『幼兒園課程指導・教師資料手冊早期閱讀長滿画的樹上』（新時代出版社、二〇一〇）、朱彥雄主編『幼兒園主題式立体化課程幼兒用書』（少年兒童出版社、二〇一〇）等がある。
- 28 首都師範大学初等教育学院の兒童文学教育研究中心は二〇一二年に立ち上げられた中国最初の兒童文学教育の研究機構である。「当兒童文学教育研究中心の特徴は）中国兒童文学研究における新たな研究方向、即ち兒童文学教育研究、異なる教育形態との協働研究である。異なる教育形態との協働研究とは、例えば、兒童文学と国語教育、兒童文学と生命教育、兒童文学と教員教育、兒童文学と戲劇教育等異なる研究分野である」・王蕾「中国兒童文学教育研究議談」、龔曙光主編『童

年書写的想象与未来 第十四届亚洲儿童文学大会论文集(八) 十四歳(湖南少年兒童出版社、二〇一八)、一八〇～一八六頁。
また、首都師範大学では生命教育における絵本を用いた教授法の開発も盛んに行われている。中山節子、夏鵬翔「中国小學校における絵本を教材とした教育実践の動向・生命教育における新たな試み」『千葉大学教育学部研究紀要』六七号(二〇一九年三月)、二五～三一頁。

29 王蕾主編『幼兒图画書主題賞読与教学』、『小学图画書主題賞読与教学』。

30 王蕾、王泉根「中国兒童图画書的原创出版突围」『出版發行研究』二〇一九年一〇期(二〇一九年十月)、四〇～四三頁。

31 『いちご』というタイトルの絵本が多数ある。区別するため、ここでは著者の名前を記す。

(本研究は二〇二二年度松下幸之助記念志財団研究助成を受けたものです。)